

園長だより

二十三号三十一年一月
竹鼻保育園
園長 川出昭順

た。 昨年の最後の給食献立にこのような言葉が入っていました。

お正月は、一年間の幸せをもたらしてくれる「歳神さま」を家庭で迎える大切な日です。一年の幸せを願い、家族が集まって食事を共にします。その時に食べるのがおせち料理で、神様と食事を共にして、福を招き、災いを打ち払うという願いがこめられています。

これを読まれて皆さんは何か感じましたか。私はこれはまずいと思ひ、栄養士の先生に一年かけて何が問題なのかを考え、来年にはこのような記事は載せないようにとたのみました。しかし、彼女だけではありませんが、何が問題なのかが見えてきません。園長先生の言っていることがおかしいかと思われ受け取られがち



新聞紙で遊ぶのは楽しいな。ぞう組のクラスだより

です。ここに私の意見を述べます。

私達は世の中すべていいことが起こりますように、悪いことは起こりませんように、と祈っておりますので、それに叶ったことが「おせち料理」ということで書かれたことに何のこだわりもなかったと思います。しかし、仏教を保育の中心に据えている本園としましては、一言いわなくてはならないと考え、筆を執っています。悪いことが起こらなくて、いいことが起こる。素晴らしいことだと。私達の願いを「おせち料理」にかけているわけですね。しかし、人生そんなことはありません。都合の悪いことも必ず起こります。そうならないようにするためにそうしていると言いたいのですが・・・。「おせち」に限らず、そのような考え方はありとあらゆるところにあります。縁起を担ぐとか、日の良し悪しをみるとか、家相、手相、星座まで、いいことが起こるように願いを掛けているわけです。大きな願いはお金が儲かることでしょうか、儲かりますよという神社がありますね。健康でなければという無病息災を叶えて下さる神社仏閣、ぽっくりさんまであります。家族のものが元気であり事故に遭わないように約束してくれるお札も、受験の神様もおられます。こんなのもテレビでやっていました。木の葉が枯れても落ちない、それでそれをお札に貼り付けて受験のお守りで販売しているとか。それがいいと言うならそうなんですが、・・・。

でも、何かおかしい。いいことが起こることだけに眼を向けていくと、生きていることを正しく見ていないのではないのか。人生、いいことも悪いこともある、当たり前です。いいことだけ求め続けて、本当の私の人生になるのでしょうか。いいことも私の人生であり、悪いことも私の人生ではないのでしょうか。仏教の教えは、いいことのみ執着する私に光を

当てるのです。

皆さんの世代ですと、仕事のことやら、夫婦の関係やら、子どものことやらで厄介な問題が次々と起こっているのではないでしょうか。切実にいいことが起こるように願っているのですが、そうばかりは行きません。大きな壁に突き当たった、苦悩している方も多いと思います。何とかそこから逃れたいと思い、神社仏閣に手当たり次第お参りしている方もあるかも知れません。

もうすぐ節分です。豆まきをして鬼を追い出し、いいこと福だけがくるようにというのです。これも上記のことと同じです。私にとつて都合の悪いことを常に避けて生きていく、そこには鬼を恐れる人間の心があるわけです。人間の弱さを表しているのです。私達は弱い自分をさらけ出すのはいやです。人から後ろ指をさされたくはない。強そうな自分を無理しても出しているのです。強い自分を支えてくれるのが宗教であると考えます。都合の悪いことが起こらないように神社仏閣にたのみ、都合のいいことが起こるようにお札などを手に入れるわけです。

神様は人間の願いを叶えて下さる。それに対して仏様は何をして下さるのか、よく分からない。だから、死んだ時いいところへ生まれることが出来るのだ。しかし、若者には仏様は必要のないことだ、という受け取りですね。仏教者の私としましては非常に残念な受け取りです。仏教は二千五百年以上前に生まれた教えです。このような長い間を受け継がれてきたということは、並々ならぬ教えであるということです。

人間の願いは限りがありません。それを煩惱といいます。お金が欲しい、激しい愛がほしい、人の上に立ちたい、などなどいろいろあります。前にも書きましたが、強い私であり

たいということですね。しかし、現実には私の思いと裏腹で、惨めな自分が見えてきます。ある有名な女優さんがこんなことを言っていました。「結婚して人生の願いが叶えられると夢見ますが、そうではなく次々と夢が壊されていくのです。」この言葉を聞いてびっくりしました。苦労も当然多かつたと思いますが、こんなに有名になって夢叶った人と思つたら、本人は決してそうは思っていないということです。

私達は自分の煩惱故に願い事はたくさんあるのですが、そこに嘘偽りがあるということです。夫婦間でもそうなんですが、夫婦の願いが一致することはあまりありません。お互いのこうでなければいけないとか、このことは許せないとか夫婦喧嘩の原因はいろいろあります。お互いに我慢する、我慢が大きくなると一緒に暮らせない、なんとか一緒に暮らしても最期は別々のお墓に。夫婦を尽くしていくことが出来ないですね。我慢するか、何かで誤魔化すか、ですね。

仏教の話はここなのです。嘘偽りに気づくのが仏教なのです。仏教の教えは嘘偽りでない真実だからです。仏様に出会うことにより、夫婦の関係が薄いガラスのようでいつ割れるか分からない。お互いに必死になり、嘘偽りで固めていると言っているのでしょうか。そのことを教え、その原因が私自身にあること、ところがどういふわけか、相手に問題があるのでしょうか見えないのです。そんなことはないですね。喧嘩両成敗ですから、私にも問題があるはず。更に、仏教の教えは、私の発見なのです。相手の配偶者に自分が教えられる、嘘偽りに満ちた私を。仏様との出遇いは私の出遇いなのです。

なかなか理解できないところですが、何か感じ取っていただけなら有り難いです。鬼は私なのです。節分の豆まきについて保育士が「自分の怠け心」を追い払うのだよと言っていました。